



令和6年度 赤穂市立坂越中学校 学校評価・学校関係者評価

1 本年度の学校(園)経営方針

1 学校教育目標
『志を高く持ち、夢に向かって主体的に学ぶ生徒の育成』 ～さわやかな「あいさつ」、あふれる「笑顔」、響く「歌声」～
2 基本方針
(1) 子供たちが、毎日「笑顔」登校し、安心して生活できる学校・学級づくりを行うため、日々の「あいさつ」「歌声」を大切に、「明日も行きたい」学校づくりをめざす。
(2) 志を高く持ち、自分の夢の実現に向かって、主体的に学び力を身に付けさせる。
(3) 本校の伝統と文化を継承し、それを更に高めることの大切さを謳う「坂中精神」に基づき、生徒会活動を中心とした、「気づき・考え・行動」する生徒を育成する。

2 本年度の学校(園)重点目標

(1) 確かな学力を育成する。	<知>
(2) 豊かな心を育成する。	<徳>
(3) 健やかな体を育成する。	<体>
(4) 新たな不登校を生み出さない、生徒への寄り添った支援を推進する。	<不登校対策>
(5) 特別支援教育の充実を推進する。	<特別支援教育>
(6) 魅力ある学校づくり、地域に開かれた信頼される学校づくりを進める。	<開かれた学校づくり>
(7) 安全安心な学校づくりを進める。	<安全安心な学校づくり>

総合的な学校園関係者評価

○年度途中から、インフルエンザ等の流行で学級閉鎖になることもあったので、今後も感染予防対策を講じながら教育活動を推進していきたい。
○「学校だより」を定期的に発行し、学校の様子だけでなく、学校規模適正化に関する情報を積極的に発信していくことが必要である。
○部活動の地域移行についての情報を市教委とも連携しつつ、情報の発信に努める。
○生徒の交通ルールの遵守、職員の交通事故防止に向けて継続して啓発の必要がある。
○職員の綱紀粛正について日頃から真摯に取り組むこと。
○生徒は、日頃から気持ちよくあいさつをしている。
○部活動の地域移行について、生徒の体力減退や団体行動の精神が希薄にならないか心配である。
○評価項目の達成状況を決める上での評価資料について、概ね全観点において「教職員自己評価」が必要であると考え。最初一つの観点のみの評価について利用されている様に感じる。アンケートの内容をもう少し変え、全観点の評価に利用する方が良いのではないかと。どこから改善の方法が考え出されたのかが、よく分からない物になっていないだろうか。
○重要な協議会に出席し、大変勉強になった。

3 自己評価結果 (A～D) A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

観 点 (重点目標)	評 価 項 目 (学校園・教師の取組) 評 価 指 標 および 目 標 値 (期待される姿)	評価資料	達成状況	改善の方策
学習指導の 充実	項目 協同学習を取り入れた困り感に寄り添う授業 指標 生徒一人ひとりに学びのある授業の推進	生徒アンケート	B	・主体的・対話的な授業づくり、 グループ学習の推進 ・英語、数学で習熟度学習の深化 ・毎時間プリントを用意するなど、 一人一人のニーズに応じた少人数授業のあり方の工夫 ・モジュールを活用した学習タイムを充実させ、基礎基本の定着を図る
	項目 基礎・基本を大切に授業 指標 生徒にとって分かる授業の推進	生徒アンケート		
	項目 一人一人の生徒に対応した指導 指標 TTや少人数授業による指導	生徒アンケート		
	項目 生徒の意見をつなぐ授業 指標 多様な発言を引き出す発問	教職員自己評価		
	項目 指標			
	項目 指標			
生徒理解に つながる生 徒指導	項目 いじめ、非行問題への対応 指標 共感的理解に基づく生徒指導体制の確立	生徒アンケート 保護者アンケート	B	・定期的ないじめアンケートを活用した教育相談の推進 ・学校が一丸となった、いじめ・ 非行対策の推進 ・教育相談の持ち方（時期、回数 担任の時間確保等）の工夫 ・生活ノートの活用や生活アンケートを活用した指導 ・年度当初の参観日、体育祭、文化祭等、保護者や地域住民が参加できる機会の増設
	項目 家庭、地域、専門機関と連携した生徒理解 指標 保護者、地域と連携した行事の推進	生徒アンケート 保護者アンケート		
	項目 望ましい集団生活を目指す 指標 自ら気づき、考え、行動する生徒の育成	生徒アンケート 保護者アンケート		
	項目 思いやりのこころを持つ生徒の育成 指標 共に支え合い、高めあう生徒の育成	生徒アンケート 保護者アンケート		
	項目 新たな不登校を生み出さない取組 指標 生徒理解・保護者との連携の推進	生徒アンケート 保護者アンケート		
	項目 指標			
特別支援教育の 充実	項目 特別支援教育について全員の共通理解を図る 指標 特別支援教育学習会を毎月開催	研修会の開催及び研修内容	B	・赤穂特別支援学校と連携した交流行事の内容深化 ・職員会議時に、特別支援教育「ドクター」を中心とした研修会の開催（年に2回実施） ・教育支援委員会の定期的な開催による共通理解（月1回） ・個別支援計画、指導計画の更新
	項目 教育相談と指導を適切に行う 指標 特別支援教育校内委員会の定期的な開催	校内委員会の開催及び協議内容		
	項目 指標			
	項目 指標			
	項目 指標			

学校園関係者評価

◎：適切である ○：ほぼ適切である △：あまり適切でない ×：適切でない

自己評価は 適切か	改善方策は 適切か	課題と来年度具体的改善方法
○	○	・「生徒アンケート」「保護者アンケート」共に、「先生に相談」の項において、25%の「あてはまらない」が存在するのが気になったので、改善が必要である。 一人一人に時間を割くことも大切だが、この25%にもう少し目を向けられる体制をとる必要があるのではないかと。定期テストの点数分布を見てみると、この問題とリンクしている所がないだろうか。
○	○	・自己評価が高く、喜ばしいことであるため、推進を継続して欲しいと思われる。また、忙しい中ではあるが、教職員が寄り添うことで生徒も心を開きやすくなると思われる。
○	○	・関わりがないと知る機会が少なくなるので、情報発信を効果的にされることを望む。

観 点	評 価 項 目（学校園・教師の取組）		評価資料	達成状況	改善の方策
	評 価 指 標（児童・生徒・園児の状態・行動）				
人権教育の推進	項目 指標	人権教育の視点に立った教育活動 一人一人を大切にした教育活動	生徒アンケート 保護者アンケート	B	・主体的、対話的な場面を取り入れ、授業や生活の中で一人一人を大切にする教育活動の実践 ・令和7年度研究会を見据えて、人権教育、道徳教育の充実による、相手を思いやるこころの育成 ・性の多様性の対応に向けた人権教育研修及び授業の充実 ・授業のユニバーサルデザイン化 ・講師招聘の研究授業
	項目 指標	感性豊かな優しい心情を育む 思いやりのある行動がとれる児童の育成	生徒作文 生徒アンケート		
	項目 指標	新たな人権教育の推進 体験的・実践的活動の充実	生徒作文 生徒アンケート		
	項目 指標				
	項目 指標				
	項目 指標				
健康安全教育の推進	項目 指標	食育の推進 「早寝早起き朝ごはん」運動の推進	生活アンケート 保護者アンケート	B	・生徒の生活アンケートを生かした保健指導や保護者への啓発 ・外来者への声かけ及び施設等の定期的な点検及び改修 ・危機対応マニュアルの更新 ・自転車の定期検査の実施 ・交通ルールやマナーの定期的・継続的な指導 ・6校園所の連携による「早寝・早起き・朝ごはん運動」の取組
	項目 指標	危機管理体制の整備 外来者等に適切に対応できる	対応マニュアル		
	項目 指標	安全管理体制の整備 事故等に対する適切な対応	対応マニュアル		
	項目 指標				
	項目 指標				
	項目 指標				
教職員の資質向上	項目 指標	新しい情報を取り入れた研修・研究の実施 研修会の開催と研修したことを生かした実践	生徒アンケート 保護者アンケート	B	・主体的、対話的な授業づくり研究会の実施（年1回実施） ・全教員による授業公開 ・道徳の時間の充実のための授業研究会の定期開催（学期1回） ・継続的な職員研修 ・校内における自主研修及び内部講師による職員研修
	項目 指標	専門性を生かした教育活動の推進 専門性を高める研修会の実施と実践	生徒アンケート 保護者アンケート		
	項目 指標				
	項目 指標				
	項目 指標				
	項目 指標				

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と来年度具体的改善方法
○	○	・今後の高等教育の在り方を見据え、対話の充実は必要であり、その考えの源となる「人権教育」について、「聞く」だけでなく「聴く」といった能動的な活動をもっと取り入れる必要があると感じる。同時に、会話主体の授業を実践することを希望する。 ・残念ながら坂中は、学力が低いという話をよく小耳にします。小テストなどを繰り返すことで自分の理解度を認識し、苦手を克服→達成感→向上心につながればいいと思う。
◎	◎	・6校園所の連携による「早寝・早起き・朝ごはん運動」は、家庭との連携により定着しているが、子どもたちが将来、自分のこととして意識するよう気づきを高めていく必要がある。
○	◎	・「継続は力なり」といわれるとおり、教員の人間性、専門性が子どもたちに与える影響は大であるので、惜しみなく自己研鑽に努められたい。

自己評価における特記事項

○ 新型コロナウイルス感染症が昨年度の5月8日以降、5類に移行したのを受け、校内での職員研修に加え、2学期に関西福祉大学の新川教授を迎えて、人権、道徳に関する授業研究会を実施した。今後の研究を深める上で、とても充実した研修であった。 ○ 子どもの健全育成については、時を逃さず、保護者・関係機関と手を取り合い積極的に取り組んでいく。 ○ 学校だよりを全戸回覧し、できる限り学校や生徒の様子を地域・家庭に発信し、同時に学校に対する意見を求める機会となった。地域の中学校に対する関心が今年も高まり、内容についてのご意見もいただけるようになった。 ○ 学校目標に「『あいさつ』、『笑顔』、『歌声』」と提示しているように、今後も感染対策を行いながら、「『あいさつ』、『笑顔』、『歌声』」について、生徒会も巻き込んで継続して取り組んでいきたい。本年度の文化祭においても、各学年の合唱披露は生徒の意欲がよく感じられた。特に3年生の歌声は、最高学年の誇りを感じた。 ○ 部活動では、今年も全国大会出場（陸上男子800m）できたことは、とても誇らしいことである。 ○部活動の地域移行については、国・県の動向を注視し、赤穂市部活動地域移行協議会の方針を踏まえ、混乱の無いようにすすめていきたい。 ○職員の綱紀粛正については、今後も真摯に取り組んでいく。
--

項目以外の点での来年度の課題や具体的改善方法

・先生方と生徒の距離感が少し気になるときがある。現代の教職員の雰囲気を知ることが事ができないので詳しくはいえないが、4分の1の生徒・保護者のアンケート結果を少し分析してみてもどうだろうか。アンケート全体を通して、もう少し個別的な記述を求めても良いのかと思う。 ・あいさつができる子どもが多いと感じる。 ・部活動の地域移行の件をあくまでも子どもが主体なので、スムーズに行くようお願いしたい。 ・教職員の綱紀粛正に関して、保護者会に出席された保護者（母親）の気持ちを蔑ろにしているように映った。協議委員の男性の発言で風向きが変わった様に感じたところもあった。安心して子どもを通わせることができる学校であってほしいと思う。 ・全体を通して「B判定」、「だいたいあてはまる」が目立つ。いちばん、対応や改善に困ると思うので、1年を通しての評価より、学期や1ヶ月単位で良い悪いの評価をして改善すべきである。 ・生徒アンケートで5割以上の生徒が「学校へ行くのが楽しい」と回答しており、生徒にとっては、学校が居心地の良い場所、行こうという場所になっているのは、とてもいいことだと思われる。”あてはまらない”と答えた生徒の理由が気になる。
--